

## 教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	
鈴木 耕太郎 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：妖怪の誕生——超自然と怪奇的自然の存在論的歴史人類学——</p> <p>著者：廣田龍平</p> <p>出版社：青弓社</p> <p>ISBN：9784787220943</p>	<p>研究とは、先人たち（≡研究者たち）が積み上げてきた成果を丹念に拾いつつ、しかしそれらの限界を明示し、乗り越える作業だといえる。本書はまさにこれまでの妖怪研究を（先人たちの功績を認めつつ）「ぶった斬る」内容となっている。したがって、本書の内容は、「気軽にサクッと読める」ものではない（いや、読めてしまう人もいるかもしれないので断定は危険か……。ただ、少なくとも私は読めなかった）。それでも本書を強く推薦するのは、「妖怪」研究の間違いなく最先端をいく本だから。難渋な箇所もあるだろうが、ぜひ読み切っていただきたい。そして、いつか誰かが、妖怪研究史上、高くそびえたつ本書を超える研究に着手していただきたいと願ってやまない。</p>
<p>② 図書名：椿井文書——日本最大級の偽文書</p> <p>著者：馬部隆弘</p> <p>出版社：中央公論新社</p> <p>ISBN：9784121025845</p>	<p>「偽書」——それは後世の人間が創り出した「偽の歴史」を記した文書。いわば捏造そのもの。本書は近世後期、いまの京都府木津川に実在した椿井政隆なる人物が創り上げた膨大な「偽書」をもとに、彼がなぜそうした「偽書」を創り上げたのか、その背景を探る。と同時に、それら椿井による「偽書」をホンモノの歴史史料として、自治体史や地域の歴史を語る教科書に取り上げられてしまった実例を紹介し警鐘を鳴らす。「偽書」を「偽書」だとわかっていれば、それはむしろ研究題材にもなる。しかし、「偽書」をホンモノと認定してしまったとき、地域の歴史はいとも簡単に捏造された歴史に塗りつぶされてしまう。地域史に興味のある方はぜひ手に取っていただきたい一冊。</p>
<p>③ 図書名：差別と宗教の日本史——救済の〈可能性〉を問う——</p> <p>著者：磯前順一 監修</p> <p>出版社：法藏館</p> <p>ISBN：9784831857224</p>	<p>日本の宗教史をひもとくと、儀礼の現場から日常的な組織の運営に至るまで、随所に差別され、抑圧されてきた人々の姿が浮かび上がる。彼らは生まれ、ないし育ちによって無根拠にケガした存在とされ、しかしだからこそ「通常」の人間が行うことが憚られるような宗教的現場において活動してきたのである。これを「包摂」と呼ぶのか、いや差別意識に基づく「使役」と呼ぶのか——。また女性であるというだけで、日本では血のケガレと結びつけられてきた歴史がある。——女性は救済の対象にならなかったのか。本書は宗教と差別との関連性を13本の論考（+序章）によりあらゆる角度から論じた一冊。こうした問題に興味・関心がある方は手に取る価値は十分である。</p>